

事業(プロジェクト)実績の詳細

代表者: 京都工芸繊維大学 デザイン・建築学系 教授 阪田 弘一

連携先: 株式会社リノベーター

事業名(プロジェクト名): 多様化する住宅確保要配慮者への、民間による空き家を活用した適正かつ持続的な住宅提供事業モデルの構築

・研究開発の意義:

本事業は、低所得者や母子家族など住宅確保に課題を抱える「住宅確保要配慮者」への空き家を活用した居住支援を、民間事業として進めるための事業モデルを研究開発することを目的としている。本研究開発の意義は、今後総人口が減少する中で供給の増加が見込めない公営住宅等に代わり、民間の空き家を活用する新たな住宅セーフティネット制度(以下住宅 SN 制度)が設けられたものの普及には程遠い状況下で、民間による住宅確保要配慮者への適正な居住支援事業の起業や充実を促す一助となることにある。

・主な事業実績

- ① 住宅確保要配慮者への空き家を活用した居住支援を民間事業として順調に進めている全国でも希少な事業者と連携し、当事業者の住宅賃貸事業の実態や特性を把握しモデル化を試みた。
- ② 要配慮者サイドへのヒアリング・アンケート調査および実装実験、文献調査により、主に居住環境上解決すべき課題が複雑で居住支援に関する知見が乏しい母子家庭とDV 被害者への適切な住宅提供と持続的な居住を可能にする事業モデルを構築するための有効な知見を得た。

・今後の活動

連携事業者による住宅確保要配慮者向けの空き家活用による住宅賃貸事業のモデル的把握と、住宅確保要配慮者の中でも多くの課題を有すると考えられる母子家庭やDV 被害者を対象とした居住支援に関する要配慮事項についてはその一端を明らかにしたものの、それら知見を組み込んだ新たな事業モデルの具現化と効果検証には至っていない。連携事業者と今後も連携を継続し、新たな研究資金獲得のもと社会実装などを通して、残された課題の解決に取り組む予定である。